

Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 2.7.1

NetBackup 52xx、5330



Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

マニュアルバージョン: 2.7.1

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Symantec Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は「現状のまま」で提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。テクニカルサポートの主な役割は、製品の機能に関する特定の問い合わせに対応することです。テクニカルサポートグループでは、オンラインのナレッジベース用のコンテンツも作成しています。テクニカルサポートグループは弊社のほかの部門と協力して、ユーザーの質問にすばやくお答えします。

サポートする内容は次のとおりです。

- 任意の規模の組織に対応する、適切な量のサービスを柔軟に選択できるさまざまなサポートオプション
- 迅速な対応と最新の情報の提供を可能にする電話や Web ベースのサポート
- ソフトウェアアップグレードを配信するアップグレード保証
- 地域の業務時間または 24 時間 365 日ベースで購入できるグローバルサポート
- アカウント管理サービスなどのプレミアムサービス

サポート内容について詳しくは、次の URL から Web サイトにアクセスしてください。

www.veritas.com/support

すべてのサポートサービスは、サポートについての同意事項とその時点で最新の企業テクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

テクニカルサポートへの連絡

現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support

テクニカルサポートに連絡する前に、製品のマニュアルに一覧表示されているシステム要件を満たしていることを確認します。また、問題を再現する必要がある場合には、問題が発生したコンピュータを使用できる必要があります。

テクニカルサポートに連絡するときは、次の情報が使用できるようにしてください。

- 製品のリリースレベル
- ハードウェア情報
- 使用可能なメモリ、ディスク容量および NIC の情報
- オペレーティングシステム
- バージョンおよびパッチレベル
- ネットワークポロジ
- ルーター、ゲートウェイおよび IP アドレスの情報

- 問題の説明:
 - エラーメッセージとログファイル
 - テクニカルサポートに連絡する前に実行したトラブルシューティング
 - 最近のソフトウェア構成の変更およびネットワーク変更

ライセンスおよび登録

製品の登録またはライセンスキーが必要な場合には、次の URL にあるテクニカルサポートの Web ページにアクセスします。

www.veritas.com/support

カスタマーサービス

カスタマーサービスの情報は次の URL で利用できます。

www.veritas.com/support

カスタマーサービスは、次の問題のような技術的でない質問に利用可能です。

- 製品のライセンスまたはシリアル化に関する質問
- 住所または名前変更のような製品登録の更新
- 製品の一般情報（機能、対応言語、地域の取り扱い業者）
- 製品の更新およびアップグレードについての最新情報
- アップグレード保証およびサポート契約についての情報
- テクニカルサポートのオプションに関するアドバイス
- 発売前の技術的なことではない質問
- CD-ROM、DVD、またはマニュアルに関連した問題

サポート契約のリソース

既存のサポート契約について弊社に連絡する場合には、次のとおり地域のサポート契約管理チームに連絡してください。

世界共通（日本を除く）

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

目次

テクニカルサポート	3
第 1 章 NetBackup Appliance 2.7.1 の機能、拡張機能、変更	7
NetBackup 5330 のハードウェアの機能	7
NetBackup 5330 アプライアンスのストレージユニットについて	10
NetBackup 52xx のハードウェアの機能	11
NetBackup Appliance 2.7.1 の新機能、拡張機能、および変更について	13
NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更	14
第 2 章 NetBackup Appliance の互換性	18
ソフトウェアリリース形式について	18
NetBackup Appliance リリースの互換性	19
NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	20
NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	21
第 3 章 操作上の注意	23
NetBackup Appliance 2.7.1 の運用上の注意について	23
NetBackup Appliance 2.7.1 の操作上の注意	24
NetBackup Appliance の一般的な注意	30
NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	32
インストールと構成の注意	35
VMware に関する注意事項	37
NetBackup サポートユーティリティについて	39
NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	39
NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)	40
その他の利用可能なサポートについて	40
NetBackup Appliance のログファイルについて	41
付録 A リリース内容	43
現在のリリースの内容について	43
NetBackup Appliance 2.7.1 のリリース内容	44

付録 B	関連ドキュメント	45
	NetBackup Appliance のマニュアルについて	45

NetBackup Appliance 2.7.1 の機能、拡張機能、変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 5330 のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance 2.7.1 の新機能、拡張機能、および変更について](#)
- [NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更](#)

NetBackup 5330 のハードウェアの機能

NetBackup 5330 は、より大きなストレージ容量、RAM、またこれまでの NetBackup Appliance を上回る速度を備えています。また、他の NetBackup Appliance と比較して、追加の 10 GB イーサネットポートからより大きな I/O 容量を得られます。

NetBackup 5330 ハードウェアには、アプライアンスとプライマリストレージシェルフが備わっています。アプライアンスにはストレージがありませんが、プライマリストレージシェルフと最大 2 つの拡張ストレージシェルフの空き領域をバックアップのために使うことができます。プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは 3 TB または 6 TB のディスクドライブをサポートしますが、シェルフ内のすべてのドライブを同じ容量にする必要があります。次の表に、NetBackup 5330 アプライアンスシステムで利用可能な、フォーマット済みストレージの容量を示します。

表 1-1 NetBackup 5330 Appliance バージョン 2.7.1 ストレージ容量オプション

NetBackup 5330 Appliance (ソフトウェアバージョン 2.7.1)	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	総ストレージ容量:
構成 A	114 TB	-	-	114 TB
構成 B	114 TB	114 TB	-	229 TB
構成 C	114 TB	229 TB	-	343 TB
構成 D	114 TB	114 TB	229 TB	458 TB
構成 E	229 TB	-	-	229 TB
設定 F	229 TB	229 TB	-	458 TB

5330 アプライアンスは、5230 アプライアンスに対する次の改善点も提供しています。

- メモリの増加
NetBackup 5330 には **384GB** の RAM が備わっています。**5230** アプライアンスの場合、これは **128GB** でした。
- 速度の向上
5330 には **3.0 GHz 10 コア**のプロセッサが備わっており、**5220** の **2.0 GHz 6 コア** プロセッサに比べて改善されました。
5330 アプライアンスには、外部 **RAID** コントローラも備わっており、このコントローラによって **NetBackup 5230** の **3 倍**の書き込み速度と **5 倍**の読み込み速度がもたらされます。
- 追加のホットスワップ対応のコンポーネント
5330 の外部 **RAID** コントローラはホットスワップ対応のため、操作を中断することなく欠陥のあるコントローラを交換できます。
- 複数の冗長データパス
NetBackup 5330 は、すべての重要なストレージで冗長データパスを備えています。これによって、複数のコンポーネントエラーが発生した場合でも動作することができます。
- より耐性の高いストレージアーキテクチャ
NetBackup 5330 アプライアンスの冗長コンポーネントによって、アプライアンスはハードウェアコンポーネントにエラーが発生した場合でも生産性を維持できます。この機能によって、欠陥のある部品が交換されるまで、ユーザーの操作に対するハードウェア障害の影響を最小限に抑えることができます。

表 1-2 に、NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5230 Appliance、NetBackup 5220 Appliance 間の違いの概要を示します。

表 1-2 NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5230 Appliance、NetBackup 5220 Appliance の比較

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5230	NetBackup 5220
コア	20	12	8
キャッシュ	25 MB	15 MB	12 MB
RAID キャッシュ	24 GB	1 GB	512 MB
速度 (Speed)	3.0 GHz	2.0 GHz	2.4 GHz
ターボ速度	3.6 GHz	2.5 GHz	2.66 GHz
QPI 速度	8 GT/秒	7.2 GT/秒	5.86 GT/秒
システムメモリ (GB)	384 GB	128 GB	96 GB
メモリ構成 (DIMM)	16GB x 24	8 GB x 16	8 GB x 12
最大の外部ストレージでの標準の消費電力	2442W (10.7W/TB)	1500W (9.5W/TB)	1500W (9.5W/TB)
データ保持	RAID ごとの 1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニットから NVRAM (システムにつき 2 個)	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 2 つのメンテナンスフリーのバックアップユニット (MFBU)	1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニット
PCI アドインカードスロット	6	6	5
オンボード 10 GB イーサネットポート	2	2	0
PCI アセンブリへの追加 10 GB イーサネットカード	最大 4 枚のカード (8 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)
PCI アセンブリへの追加 1 GB イーサネットカード	不可	不可	可
PCI アセンブリの SAS RAID カード	不可	可	可

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5230	NetBackup 5220
デュアル冗長外部ストレージベースの RAID コントローラ	可	不可	不可
外部ストレージ	1 つのプライマリストレージシェルフと 2 つまでのオプションの拡張ストレージシェルフ	最大 4 つのシマンテック社のストレージシェルフ	最大 4 つのシマンテック社のストレージシェルフ

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 アプライアンスのストレージユニットについて

NetBackup 5330 アプライアンスには内蔵ストレージがありません。したがって、次の外部ストレージユニットの利用が必要となります。

- **プライマリストレージシェルフ**
 このストレージユニットには RAID が搭載されており、5330 アプライアンスのすべてのインストールに必要となります。このユニットはファイバーチャネル (FC) ケーブルでアプライアンスに直接接続されます。NetBackup 5330 システムは 1 つのプライマリストレージシェルフユニットをサポートします。
- **拡張ストレージシェルフ**
 このストレージユニットはオプションで、プライマリストレージシェルフのみを搭載した最小構成システムのディスク容量を増やすことを目的としています。このユニットは、SAS ケーブルで直接プライマリストレージシェルフに接続します。NetBackup 5330 システムは最大 2 つの拡張ストレージシェルフユニットをサポートします。

メモ: プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは、NetBackup 52xx アプライアンスと互換性がありません。Symantec Storage Shelf は NetBackup 5330 または関連付けられたストレージシェルフのいずれとも互換性がありません。

NetBackup Appliance Web Consoleから NetBackup 5330 の初期構成を開始すると、[ストレージの概要 (Storage Overview)] ページが表示されます。このページによって、システムのハードウェア構成が示され、接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題が特定されます。シマンテック社は、初期構成に進む前に特定されたすべての問題を修正することをお勧めします。

NetBackup Appliance Shell Menuから初期構成を実行する場合、Test hardware コマンドを手動で実行して接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題を特定できます。

詳しくは『Symantec NetBackup Initial Configuration Guide』を参照してください。

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの 52xx ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは同じソフトウェアを実行するので、次のどのモードでも構成できます。

- アプライアンスのマスターサーバー
- アプライアンスのマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスのメディアサーバーのみ

すべてのアプライアンスアーキテクチャは、次の特徴および機能をサポートします。

- デュアルプロセッサ、クアッドコア、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネルの接続性
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ
- Intel X520 SR2 10 GB イーサネットカードがシステムの標準またはオプションになっている
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- Linux オペレーティングシステム (シマンテック社提供)
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、マスターサーバーおよびメディアサーバー上のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートするMSDPは 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量まで提供します。

NetBackup 5220 アプライアンスには、フォーマット済み総ストレージ容量 4 TB を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 アプライアンスには、1 TB と 3 TB のストレージ容量で使用できる 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。1 TB のディスクは、4 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。3 TB のディスクは、14 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。

NetBackup 5220 と **5230** には、追加ストレージとしてシマンテックストレージシェルフを接続できます。ストレージシェルフは 2 TB または 3 TB のディスクドライブをサポートできますが、シェルフ内のすべてのドライブは同じ容量にする必要があります。

表 1-3 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5220 アプリアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-3 NetBackup 5220 のストレージ容量オプション

アプリアンスのストレージドライブ (TB)	アプリアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-4 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 アプリアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-4 NetBackup 5230 のストレージ容量オプション

アプリアンスのストレージドライブ (TB)	アプリアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプリアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55
3	13.65	2	24	37.65	61.65	*	*
3	13.65	3	36	49.65	85.65	121.65	157.65

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-5は、必要なストレージ容量の達成に必要なソフトウェアのバージョンのレベルを示します。

表 1-5 最大ストレージのための NetBackup Appliance ソフトウェアの依存関係

NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン	接続されたストレージシェルフの最大数	最大ストレージ容量 (接続されたストレージシェルフを含む)	最大 MSDP ストレージ容量
2.5 - 2.5.4	2	76 TB	64 TB
2.6.0.1	2	86 TB (14-TB 5230 アプライアンスを含む)	86 TB*
2.6.0.2 以降	4	158 TB	158 TB*

*最適なパフォーマンスのために、MSDP パーティションをアプライアンスのストレージと拡張ストレージに分割しないでください。シマンテック社は、パフォーマンス最適化のために、MSDP パーティションを拡張ストレージに置くことを推奨します。

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup Appliance 2.7.1 の新機能、拡張機能、および変更について

多くの新機能に加え、このリリースでは、NetBackup Appliance の以前のリリースからの問題点や改善点に対する多くの拡張機能を提供します。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更についての情報は、この章の以降のセクションで見つけることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、Salesforce.com (SFDC) の形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup アプライアンスソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースに含まれているエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドルのリストは、このドキュメントの付録「リリース内容」にあります。

NetBackup 7.7.1 は、NetBackup Appliance 2.7.1 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.7.1 の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.7.1 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC8511>

NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更

次のリストに、NetBackup Appliance 2.7.1 リリースの新機能、拡張機能、変更を示します。

- NetBackup アプライアンスソフトウェアバージョン 2.7.1 から、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) が Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムに変わります。現在ご利用のソフトウェアバージョンが 2.6.1.2 以前の既存の NetBackup 5220、5230、5330 アプライアンスは、バージョン 2.7.1 にアップグレードできます。状況により、バージョン 2.7.1 を入手するために 2 回アップグレードが必要な場合があります。アップグレードとセキュリティに関する新しいオペレーティングシステムの影響について詳しくは、以下のドキュメントを参照してください。

『NetBackup アプライアンスアップグレードガイドリリース 2.7.1』- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステム

『NetBackup 52xx and 5330 アプライアンスセキュリティガイド』

メモ: 特定のハードウェア、ファームウェア、性能の制限事項により、NetBackup 5200 アプライアンスはバージョン 2.7.1 へのアップグレードがサポートされません。

- NetBackup Appliance のこのリリースは NetBackup 5330 アプライアンスのための次のハードウェアの拡張機能を含んでいます。
 - NetBackup 5330 アプライアンスは、2 つめの拡張ストレージシェルフをサポートするようになりました。新しいシステムまたは既存のシステムに 2 つめのシェルフを追加できます。2 台目の拡張ストレージシェルフを接続することにより、NetBackup 5330 アプライアンスは合計 458TB のストレージ容量を提供できるようになりました。
2 つめのシェルフをインストールする方法については、『NetBackup 5330 アプライアンスハードウェア取り付けガイド』を参照してください。
 - プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが、以前の 3TB からの拡張となる 6TB のディスクをサポートするようになりました。

メモ: 個々のストレージシェルフが 3TB か 6TB のいずれかのディスクを搭載します。両方とも搭載することはできません。

p.7 の「NetBackup 5330 のハードウェアの機能」を参照してください。

ハードウェア拡張について詳しくは、『NetBackup 5330 アプライアンス製品説明ガイド』を参照してください。

■ Copilot

Copilot はネイティブの Oracle ツールと統合して、データベースバックアップの管理者にデータベースのバックアップを回復するためのより優れた制御、可視性、機能を提供します。バックアップの管理者は、ポリシーの管理、異なるストレージ形式へのデータの移動、データベースバックアップのオフサイトバックアップコピーの作成が可能です。

さらに、Copilot は NetBackup アクセラレータのテクノロジーを搭載して Oracle バックアップと復元のパフォーマンスを高速化します。NetBackup アクセラレータは Oracle の増分マージ機能と統合することによって、完全バックアップの必要性がなくなり、バックアップストレージのポストプロセスで新しい完全なデータベースイメージを合成できるようになります。

Copilot は Oracle バックアップと復元のためのアプライアンスで共有を作成したり、長期保持、レプリケーション、NetBackup Oracle アクセラレータのテクノロジーのような高度なデータ保護機能のための NetBackup での保護ポリシーをさらに作成したりすることが可能になります。Copilot はアプライアンス限定ですが、NetBackup ソフトウェアで追加の構成手順を必要とします。

Copilot 機能を利用するには、次の手順を完了する必要があります。

- NetBackup アプライアンスのシェルメニューを使用して、アプライアンス上に共有を作成します。
- Oracle サーバーでアプライアンスの共有をマウントします。
- NetBackup を使用して、ストレージライフサイクルポリシー (SLP) と Oracle Intelligent Policy (OIP) を構成します。

メモ: Oracle システムと NetBackup Appliance の間にファイアウォールがある場合は、NFS トラフィックを許可するようにファイアウォールのセキュリティポリシーを構成する必要があります。そうしないと、Oracle システムへの NFS 共有のマウントが動作しません。

Copilot の構成について詳しくは、『NetBackup Copilot for Oracle 初期構成ガイド』を参照してください。アプライアンスでの共有の管理方法について詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

- NetBackup アプライアンス 2.7.1 から、完全修飾ドメイン名 (FQDN) をアプライアンスのホスト名として使うことができます。
- NetBackup アプライアンス 2.7.1 から、CallHome が有効であれば、受信する電子メールのアラートは少なくなるが参照で得られる価値がより大きくなるが見込まれます。

- **AutoSupport** 間隔が **24 時間未満 (1440秒)** に設定されると、アップグレードプロセス中にシステムがその間隔を自動的に **24 時間** にリセットします。
- ハードウェア障害が発生すると、アプライアンスは設定された電子メールアドレスに向けて **3 種類** の電子メールのアラートを生成します。
 - エラーが検出されるとハードウェア障害について通知する電子メールのエラーメッセージ。
 - エラーが解決されるとハードウェア障害について通知する電子メールの解決メッセージ。
 - 現在未解決のすべての電子メールアラートを概略化する電子メールによる **24 時間** の概略。
- **NetBackup Appliance 2.7.1** から、**Internet Explorer 9.x** は **NetBackup Appliance** のサポート対象の **Web ブラウザ** ではありません。 **NetBackup Appliance Web Console** または **IPMI コンソール** へのアクセスに **IE 8.x** または **9.x** をご利用の場合、**IE 10.0** 以降にアップグレードする必要があります。
 詳しくは、『**NetBackup Appliance 管理者ガイド**』の「**アプライアンスでサポートされる Web ブラウザ**」のセクションを参照してください。
- **NetBackup** アプライアンスオペレーティングシステム (OS) および内部ディスクのハードウェア監視に使用されるエンクロージャ ID がこのリリースで **99** から **65535** に変更されました。
- **インフラストラクチャサービス** (データベースおよびメッセージキューサービスを含む) を管理するために、**[インフラサービス]** というメニューアイテムが **[サポート]>[プロセス]** メニューの下に追加されました。データベースおよびメッセージキューサービスの開始と停止およびこれらのサービスの状態表示に新しいコマンドを使用できます。

メモ: インフラサービスのコマンドは主にトラブルシューティングとサポートのために使われます。これらはテクニカルサポートのガイダンスに従って使ってください。インフラサービスを停止すると、実行中の操作でエラーが起きる可能性があります。

これらのコマンドについて詳しくは、『**NetBackup アプライアンスコマンドガイド**』を参照してください。

- **[サポート]>[ログ]>[VxLogView]** コマンドに **2 つ** の新しいモジュールが追加されました。これらの新しいモジュールは、**[AuthService]** および **[タスクサービス]** と呼ばれ、それぞれ、認証モジュールとタスクサービスモジュールのログを表示できるようにします。
 これらのコマンドについて詳しくは、『**NetBackup アプライアンスコマンドガイド**』を参照してください。
- **Symantec Critical System Protection (SCSP)** 機能はバージョン **6.5** にアップデートされ、名称が **Symantec Data Center Security (SDCS)** に変更されました。この機

能は自動的に非管理モードに設定されています(デフォルト)。この機能を管理モードに設定するには、アプライアンスを SDCS サーバーに接続する必要があります。詳しくは、以下のドキュメントを参照してください。

『NetBackup 52xx and 5330 アプライアンス管理者ガイド』

『NetBackup 52xx and 5330 アプライアンスセキュリティガイド』

メモ: SDCS 6.5 では、8 時間を超えて IPS ポリシーを上書きして無効にすることができなくなりました。この制限はアプライアンスプラットフォームではなく、SDCS ソフトウェアでの制限の一部です。

また、SDCS 管理サーバーでアプライアンスの IPS および IDS のポリシーも更新する必要があります。古いポリシーを使用してソフトウェアバージョン 2.7.1 以降を実行しているアプライアンスを管理することはできません。新しいポリシーは、NetBackup Appliance Web Console の [監視 (Monitor)] > [SCSP のイベント (SCSP Events)] ページからダウンロードできます。また、IPS および IDS のポリシーに設定したカスタム規則やサポートの例外は NetBackup Appliance 2.7.1 にアップグレードした後は使用できなくなります。

-
- NetBackup Appliance 2.7.1 以降、NetBackup Appliance のシェルメニューの Monitor > Hardware > CallHomeNow コマンドがサポートされなくなりました。

メモ: このリリースでは、このコマンドがまだシェルメニューに表示されていますが、動作しません。

-
- NetBackup Appliance 2.7.1 以降、NetBackup Appliance Shell Menu または NetBackup Appliance Web Console を使用して、vCenter および SCVMM クライアントの新しい証明書を生成するか、既存の証明書を削除することができます。

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance リリースの互換性](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルでの **NetBackup** のリリースを利用できるようにすることで、シマンテック社はお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。

NetBackup Appliance 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6** のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **2** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1** のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **3** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1.2** のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、

マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

NetBackup Appliance リリースの互換性

NetBackup Appliance を使用すると、既存の NetBackup 環境に、アプライアンスをメディアサーバーまたはクライアントとしてすばやく追加することができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup の NetBackup Appliance との互換性については、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>

Symantec NetBackup は、環境内のマスターサーバーが、同じ環境内のメディアサーバーおよびクライアントのバージョンレベルと同じかそれ以降になっているように常に管理されています。NetBackup 環境全体を最新のメンテナンスリリース (ドット 3 つ) を使用して最新に保つことをお勧めします。ただし、NetBackup ではクライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーと異なるメンテナンスリリースでも稼動する環境の柔軟性を提供します。たとえば、マスターサーバーで稼動中のバージョンが 2.6.1 (7.6.1) である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを 2.6.1.1 (7.6.1.1) にアップグレードすることが可能です。

NetBackup カタログがマスターサーバーに存在するため、マスターサーバーはカタログバックアップのためのクライアントであると見なされます。NetBackup の構成にメディアサーバーが含まれている場合、マスターサーバーと同じバージョンの NetBackup を使用してカタログバックアップを実行する必要があります。サポートしているバージョン混在については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.18 の「ソフトウェアリリース形式について」を参照してください。

表 2-1 に、現在の NetBackup Appliance 2.7.1 の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。カッコ内の数は、NetBackup Appliance ソフトウェアの特定のバージョンに適用される基本の NetBackup のバージョンです。

表 2-1 NetBackup Appliance 2.7.1 リリースの互換性

NetBackup Appliance のマスターサーバーバージョン	NetBackup Appliance のメディアサーバーバージョン	NetBackup クライアントバージョン
2.7.1 (7.7.1)	2.7.1 (7.7.1)	7.7.1、7.7、7.6.1.x、7.6.1、7.6.0.x、7.6、7.5.0.x、7.5、7.1.0.x、7.1

NetBackup Appliance のマ スターサーバーバージョン	NetBackup Appliance のメ ディアサーバーバージョン	NetBackup クライアントバー ジョン
2.7.1 (7.7.1)	2.6.1.x (7.6.1.x)、2.6.1 (7.6.1)	7.6.1.x、7.6.1、7.6.0.x、7.6、 7.5.0.x、7.5、7.1.0.x、7.1
2.7.1 (7.7.1)	2.6.0.x (7.6.0.x)	7.6.0.x、7.6、7.5.0.x、7.5、 7.1.0.x、7.1
2.7.1 (7.7.1)	2.5.x (7.5.0.x)、2.5 (7.5.0.2)	7.5.0.x、7.5、7.1.0.x、7.1
2.7.1 (7.7.1)	2.0.x (7.1.0.x)	7.1.0.x、7.1

すべての NetBackup 52xx および NetBackup 5330 アプライアンスは、NetBackup Appliance バージョン 2.7.1 にアップグレードできます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.6.0.1 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.7.1 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.6.0.1 にアップグレードしてから 2.7.1 製品ラインにアップグレードする必要があります。

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることが推奨されます。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.6.1 より前の場合は、バージョン 2.7.1 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.6.1 または 2.6.1.x にアップグレードしてから 2.7.1 プロダクトラインにアップグレードする必要があります。

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することが推奨されます。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することが推奨されます。

- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を取ることを推奨します。デバイスの構成に使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そのようにしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗します。
- アプライアンスのマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。このルールの唯一の例外は、シマンテック社がメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。シマンテック社は任意のコンポーネント個別のアプライアンスのアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。
- NetBackup Appliance 2.5.x からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要で、す。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- 2.5.x から 2.6 製品ラインへのアップグレードを完了するにはおよそ 3 時間かかりますが、環境によってはそれ以上かかることがあります。その間にアプライアンスが数回再起動することがあります。これは正常な動作です。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

メモ: アップグレードを中止しようとはしないことが推奨されます。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、シマンテック社が帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.7.1 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 2.7.1 の操作上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [NetBackup Appliance のログファイルについて](#)

NetBackup Appliance 2.7.1 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 2.7.1 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はシマンテック社のサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup Appliance 2.7.1 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/DOC8995>

NetBackup Appliance 2.7.1 では NetBackup 7.7.1 ソフトウェアがインストールされるため、NetBackup 7.7.1 に適用される運用上の注意は、NetBackup Appliance 2.7.1 にも当てはまります。NetBackup の運用上の注意については、シマンテック社のサポート Web サイトの『Symantec NetBackup 7.7.1 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC8511>

NetBackup Appliance 2.7.1 の操作上の注意

メモ: 以前のリリースの操作上の注意に詳しい方は、このセクションのこのリリースに関する新しい内容のみを確認してください。このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を確認してください。

メモ: このセクションに記載されている注意事項および既知の問題は以前のリリースにも該当することがあります。

次のリストに、このリリースで新たにドキュメントに追加された注意事項と既知の問題を示します。

- **Symantec からの Veritas の独立に伴い、NetBackup Appliance 環境に影響する重要なサーバーの変更が行われました。** これらの変更は SORT、NetBackup Product Improvement Program、アプライアンス登録、および AutoSupport に影響します。ファイアウォールの設定とプロキシ設定に応じて、既存の機能の保守を行うために更新が必要となることがあります。
このような変更の情報については、Veritas 社のサポート Web サイトで次の Tech Alert を参照してください。
<https://www.veritas.com/docs/INFO2803>
- **NetBackup アプライアンス Web コンソールのオンラインの状況感知型ヘルプはこのリリースでは機能しません。** コンソールの右上の[?]アイコンをクリックしてオンラインヘルプにアクセスする機能は動作しません。
NetBackup Appliance 2.7.1 のマニュアルセットにアクセスするには、次のリンクをクリックします。
<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>
検索エンジンを使い、NetBackup Appliance 2.7.1 のトピックで検索することにより、オンラインでコンテンツにアクセスすることもできます。
- **NetBackup Appliance Shell Menuを使用すると、アプライアンスの役割が構成されるまでローカルユーザーコマンドが実行できません。** アプライアンスの役割が構成されていない場合、ユーザー権限の付与などを含むすべてのローカルユーザーコマンドが失敗します。役割の構成前にコマンドを実行した場合でも、役割の構成後にコマンドは失敗します。このような状況を回避するために、アプライアンスの役割の構成が完了するまでローカルユーザーコマンドを実行しないようにする必要があります。
- **画面解像度を 1280 x 1024 以上に拡張したときに、フォントサイズを 11 ポイントより大きく設定すると、コマンドラインインターフェースが適切に表示されない場合があります。** この状況を回避するためには、高い画面解像度に変更した場合でも、コマンドラインインターフェースのデフォルトのフォントサイズを変更しないようにする必要があります。

- **NetBackup 5330 Appliance** では、ケーブルが接続されていないと、ハードウェア監視の状態は正しく参照できなくなります。この状況を回避するためには、ケーブル監視操作中、すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認する必要があります。
- **2.7.1** へのアップグレード中、チェックポイントが作成された直後にキャンセルされた複製操作が再開された場合、アップグレードは失敗し、システムは自動的にロールバックされます。ロールバック後は、メディアサーバーがアクティブではなくなるため、バックアップは機能しません。この問題を解消するためには、次の手順でメディアサーバーを手動でアクティブ化します。
 - **NetBackup** の管理コンソールに管理者としてログオンします。
 - 左のパネルで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]>[デバイス (Devices)]>[メディアサーバー (Media Servers)]に移動します。
 - 右のパネルで対象のメディアサーバーを右クリックし、ショートカットメニューから [アクティブ化する (activate)]を選択します。

メモ:この問題を回避するためには、サーバーをアップグレードする前にすべてのバックアップジョブが停止していることを確認する必要があります。

マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止します。

メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始するようにスケジュールされた可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。

- **NetBackup Appliance** ソフトウェアバージョン **2.7.1** から開始すると、SSH セッションのアイドルタイムが制限されます。この変更はシステムの保全のために導入されました。そのため、SSH 操作が制限された時間よりも長くかかると、SSH 操作が失敗する原因になります。この状況を回避するためには、適切な間隔を設定するか、使用中の SSH のインターフェースアプリケーションで、一定時間内はセッションを継続する機能を有効にする必要があります。使用中の SSH インターフェースアプリケーションに関する設定の詳細については、関連マニュアルを参照してください。
- **新しい Copilot 機能**
 次に、2.7.1 リリースの制限事項について説明します。
 - Copilot 機能は **NetBackup 5230** および **5330 Appliance** でサポートされます。**NetBackup 5220** での使用はサポートされません。
 - Copilot 機能は、**NetBackup Appliance Shell Menu**に限定されています。現在、**NetBackup Appliance Web Console**機能はありません。

- クライアント名には、省略名、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、または IP フォーマットを使用できます。入力後に FQDN 形式に変換されます。
- Symantec Storage Shelf を NetBackup 52xx Appliance に接続した場合、ストレージシェルフをオンにすると、ストレージシェルフの各ストレージディスクごとに **AutoSupport 警告 (UMI コード V-475-100-1004)** が生成されます。次のメッセージが表示されます。
 「外部構成をインポートするか、ディスクを消去することができます。」
 これらの警告は無視しても問題ありません。
 初期構成中にストレージシェルフを接続した場合、初期構成が完了すると警告は消えます。
 初期構成後にストレージシェルフを接続した場合、インストール手順の中でストレージスキャンを実行すると警告は消えます。NetBackup アプライアンス Web コンソールと NetBackup アプライアンスのシェルメニューは、インストールの完了後、約 5 分間、ストレージシェルフの誤ったデータを表示することがあります。
 ストレージシェルフのインストールの詳細については、『NetBackup アプライアンスハードウェア取り付けガイド』を参照してください。
- NetBackup Appliance は Internet Explorer バージョン 10.0 以降、および Mozilla Firefox バージョン 21.0 以降をサポートします。

メモ: IE 9.x はサポート対象のブラウザではありませんが、NetBackup Appliance Web Console は IE 9.x をサポート対象のブラウザとして示す場合があります。NetBackup Appliance Web Console へのアクセスに IE 8.x または 9.x をご利用の場合、IE 10.0 以降にアップグレードする必要があります。

- アプライアンスから Oracle サーバーに共有ディレクトリをマウントする場合、VLAN 環境でホスト名およびプライベート IP (VLAN IP) を使用すると、次のエラーが表示される場合があります。

```
mount.nfs: access denied by server while mounting hostname:/shares/share
```

このエラーは、アプライアンスの FQDN を VLAN IP アドレスにマッピングするために `/etc/hosts` ファイルにエントリが追加されることで発生します。DNS 設定もパブリックアドレスを解決するために追加され、DNS 設定は `/etc/hosts` エントリよりも優先されます。

この問題を訂正するためには、次のコマンドを実行してドメイン設定を削除します:

```
Network > DNS Delete Domain.
```

- 初期構成中、[ホストの構成 (Host Configuration)] ページでホスト名を入力するか、NetBackup アプライアンスのシェルメニューで `Hostname Set` コマンドを実行すると、次のエラーが表示される場合があります。
 [エラー] V-409-930-001: ホスト名「sample.domain.com」を設定できません。ホスト名は解決できませんでした。有効なホスト名でホスト名を再度設定してください。"

このエラーを解消するには、省略名と FQDN の両方で IP アドレスに解決されていることを確認する必要があります。たとえば、`sample.domain.com` と入力して `sample` が省略名の場合、`sample` と `sample.domain.com` の両方が IP アドレスに解決されていることを確認する必要があります。

- このリリースでは、構成内の Veritas Storage Shelf の電源がオフになっているか、電源が喪失すると、ハードウェアの監視インターフェースに正しい情報が反映されない可能性があります。この問題が発生した場合は、NetBackup Appliance Web Console の [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページと NetBackup Appliance Shell Menu の `Monitor > Hardware` コマンドで存在しているストレージシェルフを表示します。表示される状態は、ストレージの電源がオフになるか、電源が喪失する前の最後の状態です。

この場合に送信される唯一のハードウェア警告はパーティションの状態に関する警告です。UMI コード `v-475-103-1002` または `V-475-103-1003` のパーティションに関するハードウェア警告が表示された場合、ストレージシェルフの電源がオンになっていることを物理的に確認してください。もう一度ストレージシェルフの電源をオンにすると、Web コンソールとシェルメニューに最新の監視情報が表示されます。

構成およびハードウェアの監視からストレージシェルフを除外する必要がある場合は、Veritas 社のサポートに問い合わせてください。

- アップグレード中にディスクの [パーティション (Partitions)] テーブルの読み取りに問題が発生した場合、次のメッセージが表示されます。

```
Error processing drive
```

```
pci-PCI_address
```

```
This device may need to be reinitialized.
```

```
REINITIALIZING WILL CAUSE ALL DATA TO BE LOST!
```

```
This action may also be applied to all other disks needing reinitialization.
```

```
Ignore Ignore all Re-initialize Re-initialize all
```

このメッセージが表示された場合、Ignore または Ignore all を選択してアップグレードを続行してください。この処理によってディスクが再初期化されることはなく、アップグレードを完了できます。

- このリリースでは、次のいずれかのシナリオで [アラートとコールホーム (Alerting and Call Home)] 設定を行おうとすると、エラーが起きる場合があります。
 - NetBackup Appliance Web コンソールでの役割の構成中

- **NTP** サーバーまたはシステムの日付と時刻の更新後に **NetBackup Appliance** のシェルメニューから

この問題が起きた場合、数分間待ってから設定の更新を再試行してください。再びエラーが発生する場合は、**NetBackup Appliance** のシェルメニューにログオンして、次のコマンドでアプライアンスのディレクトリサービスを再起動してください。

- Support > Processes > InfraServices Database Stop コマンドを使用してサービスを停止します。次のメッセージが表示されます。

```
WARNING: Stopping these services may result in failure of some
operations.
```

```
Do you want to continue? (yes/no):
```

yes と入力し、**Enter** キーを押します。

- Support > Processes > InfraServices Database Start コマンドを使用してサービスを再起動します。

アプライアンスのディレクトリサービスを再起動した後、[アラートとコールホーム (Alerting and Call Home)]設定を再試行してください。

- **IPMI** システムでエラーが発生し、プロセッサ、システムファン、電源、または温度に関する同じハードウェア監視アラートが **15** 分おきに送信される可能性があります。これらのコンポーネントに関する複数のアラートを受け取った場合、アプライアンスのファームウェアが最新であることを確認してください。**BIOS**、**BMC**、および **SDR** を確認します。更新が必要な場合は、ファームウェアの更新サイクルが完了したときにアプライアンスを再起動します。

NetBackup Appliance のシェルメニューから、Support > IPMI Reset コマンドを使って **IPMI** モジュールをリセットすることもできます。

- このリリースでは **NetBackup Appliance** のシェルメニューの Monitor > Hardware > CallHomeNow コマンドがサポートされなくなりました。このコマンドはまだシェルメニューに表示されていますが、動作しません。

- **NetBackup 5330 Appliance** では計算ノードとプライマリストレージシェルフの間に **4** 本のファイバーチャネル接続があります。これらのストレージ接続がサポートされる構成にない場合、アプライアンスのハードウェア監視によって **UMI** コード **V-475-105-1000** および次のメッセージが送信されます。

One or more of the Fibre Channel (FC) cable connections is not installed correctly or is not functional

この警告を受け取った場合は、すべてのケーブルが接続されて機能していることを確認し、サポートされる構成で取り付けられていることを確認してください。サポートされるケーブル構成については、『**Symantec NetBackup 5330 Appliance** ハードウェアインストールガイド』を参照してください。

メモ: NetBackup Appliance 2.6.x リリースラインでは、ハードウェア監視機能でサポートされていない構成のすべてのインスタンスが確認されませんでした。この制限のために、サポートされない構成で設定されたアプライアンスでは FC の状態が[最適 (Optimal)]と表示される可能性があります。このシナリオでアプライアンスを 2.7.1 リリースにアップグレードした場合、FC の状態が[最適 (Optimal)]から[エラー (Error)]に変わり、警告が送信されます。この変更は、ケーブルが動作しなくなることを意味するわけではありません。接続は機能していますが、サポートされる構成ではありません。サポートされる構成に従ってケーブルを再構成すると、エラーが解決します。

アップグレードとロールバックの注意

次に、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題について説明します。

- バージョン 2.7.1 にアップグレードする前に、既存の SUSE Linux Enterprise Server (SLES) のサードパーティプラグインを適切な Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョンに変更する必要があります。変更しなかった場合、プリフライトアップグレードスクリプトでアップグレードを開始できません。詳細については、『NetBackup アプライアンスアップグレードガイドリリース 2.7.1』- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムを参照してください。
- アップグレード中のセルフテストの失敗
アップグレードが成功したことを確認するには、アップグレード手順で /tmp ディレクトリでのバックアップおよびリストアの自動セルフテストを実行します。アップグレードするアプライアンスの /tmp ディレクトリが NetBackup エクスクルードリストに含まれている場合、セルフテストコマンドを実行する前に、このディレクトリをリストから削除する必要があります。NetBackup Administration Console にログオンし、NetBackup エクスクルードリストからこのディレクトリを削除します。

メモ: NetBackup Appliance Shell Menu から手動で Support > Test Software コマンドを実行する場合、同じエラーが発生する可能性があります。このコマンドを実行する前に、アップグレードするアプライアンスの NetBackup エクスクルードリストから /tmp ディレクトリを削除する必要があります。

- アップグレードする前に、すべてのジョブを停止して、ソフトウェアのセルフテストを実行します。
アプライアンスをバージョン 2.7.1 にアップグレードする前に、すべてのバックアップジョブを停止して、ソフトウェアのセルフテストを実行し、進行中のジョブがないことを確認してください。アップグレードのプリフライトチェックでアクティブなジョブがないかどうかを確認されますが、ベストプラクティスとしてアップグレードの前に手動ですべてのジョブを停止することをお勧めします。すべてのジョブが停止した後で、ソフトウェ

アのセルフテストを実行します。セルフテストで[Pass]状態が報告されるまで、アップグレードを続行できません。

詳細については、『NetBackup アプライアンスアップグレードガイドリリース 2.7.1』- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムを参照してください。「NetBackup Appliance バージョン 2.7.1 のアップグレード前のタスク」セクションを参照してください。

- バージョン 2.7.1 にアップグレードし、ストレージをリセットすることなく 2.7.1 を再イメージ処理した場合、次のメッセージが表示されることがあります。

```
[Error] Cannot create NetBackup objects for 'AdvancedDisk' storage pool. One of the disk volumes is not configured. Restart the Appliance and retry. Contact Symantec Technical Support if the issue persists.
```

この問題を解決するには、Symantec 社のテクニカルサポートに連絡し、担当者に TechNote 000095808 を参照するように伝えてください。

- アップグレードプロセスでアップグレード前のチェックポイントが作成されない場合は、アップグレードを続行できません。この問題を解決するには、Symantec 社のテクニカルサポートに連絡し、担当者に TechNote 000095753 を参照するように伝えてください。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、NetBackup Appliance の一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスのソフトウェアバージョンをアップグレードした後に、アプライアンスのログインバナーが維持されません。この問題を回避するには、アップグレードの前に LoginBanner Show コマンドを実行し、ログインバナーのテキストをコピーします。アップグレード後に、LoginBanner Set コマンドを実行し、コピーしたテキストを使って同じログインバナーを設定します。
- ログインバナーの見出しまたはログインバナーのメッセージの 1 行に ERROR: というテキストのみが含まれる場合は、アプライアンスのセルフテストが失敗します。
- データ損失の可能性を避けるために、NetBackup Appliance Web Console と NetBackup Appliance Shell Menu の両方で出荷時設定へのリセットを同時に実行しないでください。この操作を行うと、出荷時設定へのリセットが失敗し、ストレージデータの損失の原因となる可能性があります。
- アプライアンスをマスターサーバーまたはメディアサーバーに構成し、NetBackup Appliance Web Console にログインして [重複排除アプライアンスで重複排除とバックアップのファイバートランスポートを有効化 (Enable Fibre Transport for duplication and backups on a Deduplication Appliance)] 機能を変更すると、[保存 (Save)] をクリックしても変更を保存できません。このアプライアンスリリースの場合は、NetBackup

Appliance Shell Menuにログインしてこの機能設定を変更し、Settings > FibreTransport ビューのコマンドを使う必要があります。

- **ライフサイクルパラメータ MAX_TIME_TIL_FORCE_SMALL_DUPLICATION_JOB** を無効な設定に構成すると、アプライアンスは正常変更メッセージを表示します。LifeCycle > Show コマンドを実行して新しい設定を表示した場合は、以前の設定がまだ表示されます。このリリースでは、このパラメータを変更して構成を確認した場合は、メッセージを無視して Show コマンドを実行します。デフォルト設定は **10** で、値は大きくすることしかできません。
- アプライアンスで **eth0** ポートが設定されていない場合は、**NetBackup Appliance Web** コンソールからのチェックポイント操作が機能しません。**eth0** ポートはアプライアンスの設置の一部として設定されるため、この問題はポートの設定を解除した場合のみ該当します。
 この問題が起きた場合は、**eth0** ポートを設定するか、**NetBackup Appliance** シェルメニューを使ってチェックポイントを作成するか、チェックポイントにロールバックしてください。
- シマンテック社のリモート管理インターフェースを使って、**IPMI** ユーザーを作成または削除しないことをお勧めします。代わりに、**NetBackup Appliance Shell Menu**で Support > IPMI User Add コマンドおよび Support > IPMI User Delete コマンドを使います。
- 複数のセッションからのアプライアンスのユーザーを同時に作成すると、ユーザー作成が失敗することがあります。この問題が起きた場合は、失敗したユーザーのすべてについてユーザー作成を再実行します。
- **NetBackup 5330 Appliance** では、**LUN** オーナーシップを 1 つのコントローラから別のコントローラにフェールオーバーするときに優先パスエラーが起きる場合があります。1 つのコントローラが他のコントローラをリセットして、それが原因で優先パスエラーが起きる場合があります。このエラーが起きると、アプライアンスハードウェア監視の [ストレージステータス (Storage Status)] に [最適でない (Not Optimal)] と表示されます。このエラーは解消されるまでに数週間続く場合があります。
 このエラーが解消されない場合は、すべてのパスがエラーになり、影響を受けるコントローラがオフラインになり、その結果、冗長性とパフォーマンスが低下します。この問題が起きた場合は、シマンテック社のサポートに連絡して、担当者に **TECH225558** を参照するように伝えてください。
- **Windows 7/8.1** クライアントはアプライアンスの **CIFS** 共有に自動的にアクセスできません。この問題を回避するには、クライアントの **Windows** コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
net use /user:admin %¥¥appliance-name *.appliance-name
```

appliance-name はアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。
 メッセージが表示されたら、プロンプトでアプライアンス管理者のパスワードを入力します。
 このコマンドを実行すると、クライアントは **CIFS** 共有にアクセスできます。

- **ManageEngine** または **Wireshark** のようなネットワークプロトコルアナライザを使い、アプライアンスに **SNMP** を構成している場合は、アプライアンスの **SNMP** トラップの [経過時間 (TimeTicks)] フィールドは正しくなりません。
- **SCSP** 監査ログ保持の設定をした後にアプライアンスを再起動すると、監査ログ保持の設定は保持されません。アプライアンスの再起動後、監査ログ保持をリセットする必要があります。
- アプライアンスの再起動中に、オペレーティングシステムがシャットダウンプロセスの最終段階でハングアップする可能性があります。アプライアンスコンソールに表示され、**IPMI** サブシステムを通して確認できる最後のメッセージは次のとおりです。

Please standby while rebooting the system.....

この問題が起きた場合は、安全のためにシステムの電源をオフにし、オンに戻してから再起動を完了します。

- **NetBackup Appliance** のこのリリースでは、アプライアンスをバックアップホストまたはリカバリホストとして使った場合は、レプリケーションディレクタ (**RD**) リストアで動的マルチパス (**DMP**) がサポートされません。
- 出荷時の設定へのリセットで、no を **RESET STORAGE CONFIGURATION and BACKUP DATA** [Optional] の質問で選択すると、ストレージ関連の構成を保持すると指定したことになります。出荷時の設定へのリセット後、最初の役割の構成で **Advanced Disk** と **MSDP** のサイズを 0 に指定しないようにする必要があります。指定した場合、役割の構成は失敗します。

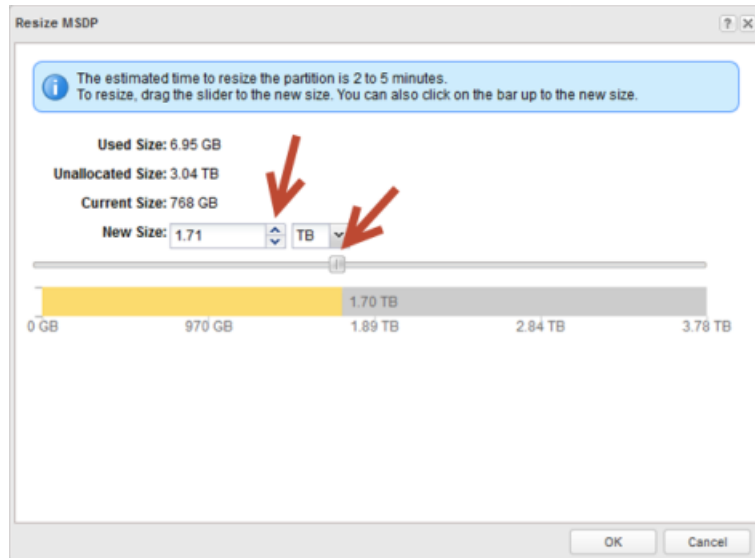
メモ: 出荷時の設定へのリセット前に、**Advanced Disk** と **MSDP** のサイズがすでに 0 に指定されている場合は 0 を指定しても問題ありません。

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、**NetBackup Appliance Web Console** と **NetBackup Appliance Shell Menu** に関する注意事項および既知の問題を示します。

- **NetBackup Appliance Shell Menu** から **NIS/Kerberos** 構成を実行すると、表示画面は下部に向けて自動的にスクロールし、画面は空白になります。構成結果を表示するまでスクロールバックします。
- **NetBackup Appliance Web Console** のホームページにハードウェアエラーが表示されていても、[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにエラーが表示されていない場合、**NetBackup Appliance Shell Menu** で現在の状態を確認してください。[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにシェルメニューで利用できる情報の一部が含まれない場合があります。

- NetBackup Appliance Web コンソールからのアプライアンスの初期構成中に、ストレージ構成では **AdvancedDisk** パーティションに **4 GB** 以上の値が許容されます。ただし、**4 GB** のパーティションは許容された設定ではありません。**4 GB** を選択すると、アプライアンスのセットアップは失敗します。正常な構成のためには、**AdvancedDisk** のパーティションサイズを **5 GB** 以上に設定します。
- NetBackup Appliance Web コンソールからストレージパーティションのサイズ調整をするときは、次の図に示すように、上矢印と下矢印または、水平スライダーを使って新しいサイズを選択します。



ただし、サイズの値は **2** つの方法で異なることがあります。できるかぎり正確にするため、新しいパーティションサイズを選択には上矢印と下矢印を使います。

- アプライアンスに NetBackup クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、NetBackup Appliance の Web コンソールには不正な [アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)] が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、Web コンソールは NetBackup バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- NetBackup Appliance Web コンソールの [監視 (Monitor)] > [SCSP イベント (SCSP Events)] ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- NetBackup Appliance Web Console には IPv6 アドレスからアクセスできません。
- ソフトウェアの更新が正常に完了しなかった場合のロールバック処理中に、NetBackup Appliance Web コンソールに [アプライアンスは 2.7.1 でアップグレード状態にありません (The appliance is 2.7.1 and not in upgrade state)] という状態が一時的に表

示されることがあります。また、進行バーには **100%** 完了と示されます。この状況では、アップグレードは正常に完了していません。

アプライアンスは直後に再起動しますが、**Web** コンソールには更新状態もプロンプトも表示されません。再起動を待って完了すると、アプライアンスに再接続できます。アップグレード中に **NetBackup Appliance** のシェルメニューで `UpgradeStatus` コマンドを実行すると、詳細情報を取得できます。

- 次のシナリオにあるように、**OpenLDAP** と **Active Directory (AD)** ユーザー名の機能には一貫性がありません。
 - **NetBackup Appliance Web Console** および **NetBackup Appliance Shell Menu**
 これらのインターフェースは、**OpenLDAP** と **Active Directory (AD)** のユーザー名で大文字と小文字を区別しません。
 - **NetBackup Java** コンソール
 このインターフェースは、**OpenLDAP** と **Active Directory (AD)** のユーザー名で大文字と小文字を区別しません。すべて小文字でユーザー名を入力した場合、**NetBackup** 管理者のコンソールへのアクセスが許可されます。すべて大文字でユーザー名を入力した場合、**NetBackup** のバックアップ、アーカイブ、復元インターフェースへのアクセスが許可されます。
- **NetBackup Appliance** のシェルメニューの `Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name` コマンドでは、証明書のパス名がハイフンを含んでいる場合は受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、**NetBackup Appliance Web** コンソールで受け入れられます。
- **NetBackup Appliance Web** コンソールの `[設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [登録 (Registration)]` ページから担当者の電子メールアドレスを複数追加することができません。ただし、**NetBackup Appliance** のシェルメニューからは、担当者の電子メールアドレスを複数追加できます。シェルメニューから複数の電子メールアドレスを追加するには、`Settings > Alerts > CallHome Registration Email` コマンドを実行し、複数の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。
- このリリースでは、**NetBackup Appliance** シェルメニューの `[メイン (Main)] > [監視 (Monitor)] > [失敗した NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs Failed)]` コマンドを実行した場合は、失敗した一部のジョブの情報が表示されません。`[メイン (Main)] > [監視 (Monitor)] > [すべての NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs All)]` コマンドを使うと、各ジョブの状態列を参照して失敗したジョブを確認することができます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、**NetBackup Appliance Web** コンソールランディングページに次の通知が表示されます。
 「コールホームサービスが機能していません。システムがコールホームサーバーでプロビジョニングされているかシマンテック社のサポートにご連絡ください。」
 ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合は、ランディングページ

には日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- **NetBackup 5330 Appliance** にプライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが含まれ、拡張シェルフに RAID ボリュームが設定されている場合は、アプライアンスのセットアップから拡張ストレージシェルフを削除しないでください。拡張シェルフを削除すると、プライマリシェルフは拡張シェルフが電源オフになったかのように動作し、エラーが発生します。拡張シェルフを削除する必要がある場合は、セットアップから拡張シェルフを削除する前に[サポート(Support)]、[RAID 解除(RAID Clear)]コマンドを実行する必要があります。

警告: [サポート(Support)]、[RAID 解除(RAID Clear)]コマンドにより、両方のストレージシェルフからすべてのデータが削除されます。このコマンドを実行する前に、必ず他の場所にデータを保存してください。

- **NetBackup 5230 Appliance** を **NetBackup Appliance 2.6.1** にアップグレードすると、次のエラーメッセージがセルフテスト中に表示されます。
「インストールしたバージョンの BIOS バージョンが正しくありません。管理者に連絡して BIOS ファームウェアを更新してください。」
このメッセージを無視しても問題ありません。アプライアンスの操作には影響ありません。
- 以前に使ったアプライアンスに **NetBackup Appliance** の新しいバージョンをインストールすると、アプライアンスの構成中に次のエラーメッセージを受信することがあります。

```
Cannot recover the existing MSDP partition because the NetBackup  
disk pool and storage unit could not be determined. ...  
- [Error] Could not configure the appliance.
```

このエラーは、既存のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) のディスクプール名に + が含まれている場合に起きます。この問題が起きた場合は、ディスクプール名に + が含まれないようにディスクプール名を変更し、手動で MSDP パーティションを構成する必要があります。Manage > Storage > Resize コマンドを使ってパーティションを構成します。

- クライアント側の重複排除操作が、状態エラー **83** が表示され失敗することがあります。

アプライアンスを構成するときに DNS を使う場合は、すべてのアプライアンスおよびマスターサーバーのネットワーク名が DNS 解決可能 (完全修飾ホスト名 (FQHN) および短縮名) であることを確認してください。DNS を使わない場合は、構成するアプライアンスに対する適切なホストエントリを入力していることを確認してください。

DNS を設定せずにアプライアンスを構成し、`/etc/hosts` ファイルに FQHN のマップに対し解決する IP アドレスがない場合は、状態エラー 83 が表示される可能性があります。アプライアンスメディアサーバーの `required_interface` 変数で設定された値が短縮名で、完全修飾ホスト名でない場合は、クライアントが正しく解決しない場合があります。

この問題を回避するには、その DNS および `/etc/hosts` ファイルが存在し、両方のファイルが解決可能なホスト名であることを確認します。

このエラー条件についての詳細は、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179320>

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合は、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。このような問題が起らないよう、コピー処理が完了するまでは他のコマンドを実行しないでください。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合は、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup Appliance Web コンソールの「管理 (Manage)」>「ライセンス (License)」**ページまたは **NetBackup Appliance** のシェルメニューの `Main > Manage > License > List` コマンドで確認できます。
- 初期構成中にアプライアンスのホスト名を割り当てると、`nbcssc` サービスファイル (**NetBackup Cloud Storage Service Container**) が更新され、デフォルトの `nb-appliance` ホスト名を維持します。この問題によって、クラウドサービスの機能とクラウドストレージの構成機能が阻害されます。この問題を訂正するには、`nbcssc` サービスファイルのアプライアンスのホスト名を変更する必要があります。メディアサーバーとして構成されたアプライアンスの場合、`nbcssc` サービスファイルのアプライアンスのホスト名を変更する前に、最初にセキュリティ証明書を作成する必要があります。次に、クラウドサービスの機能を有効にするために、このような変更を加える方法を説明します。
- マスターサーバーアプライアンスに **NetBackup CLI Administrator** としてログオンする。

- マスターサーバーアプライアンスで `nbcssc` プロセスがバックグラウンドで実行されているか確認するために、次のコマンドを実行する。

```
ps -eaf | grep nbcssc
```

`nbcssc` プロセスがバックグラウンドで実行されている場合、次のコマンドを入力してすべてのインスタンスを停止する。

```
kill -9 <nbcssc pid>
```

- マスターサーバーアプライアンスで次のコマンドを実行して、ホスト名を入力する。

```
nbcssc -s -a NetBackup -f -m master_name
```

- メディアサーバーとして構成されたアプライアンスの場合、同じマスターサーバーから次のコマンドを、順番を変えずに実行する。

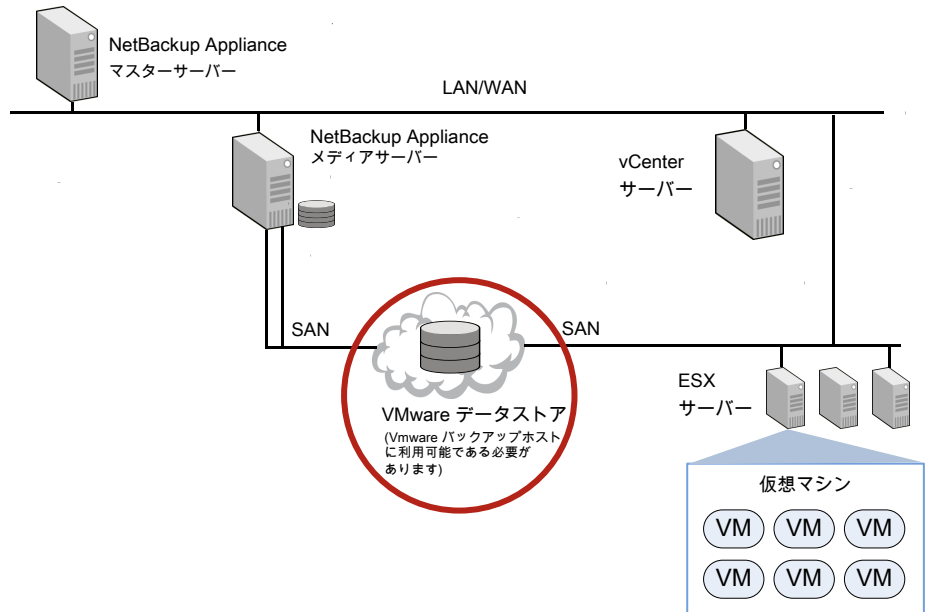
```
bpnbaz -provisioncert media_server_name
```

```
nbcssc -s -a NetBackup -f -m master_name
```

VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- **VMware データストアを接続した NetBackup 5330 Appliance** がシマンテック以外の外部 **NetApp E-series** ストレージデバイスの場合、外部ストレージのアクセス LUN を **5330 Appliance** に公開していないことを確認します。アクセス LUN を **5330 Appliance** に公開していると、ストレージデバイスのアプライアンスハードウェアの監視やスキャンなどの一部の機能が正しく働きません。
次の図に、この問題が影響を与える環境の種類を示します。



- 同時に実行される VM のリストアは、アプライアンスを SAN のリストアホストとして使うと失敗する可能性があります。SAN のトランスポートモードを使って複数の VM を同時にリストアすると、ジョブステータスログに、次のようなメッセージが記録される場合があります。

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Error bptm(pid=30649) cannot write
data to socket, Connection reset by peer
```

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Info bptm(pid=30648) EXITING with status 24
```

シマンテック社では、この問題について VMware のサポート要求: 12172237605 を発行しました。

- 次を行ってみてください。
[仮想マシンオプション (Virtual Machine Options)]ダイアログボックスで、リストアした仮想ディスク形式で[シンプロビジョニング (Thin Provisioning)]を選択してリストアを再試行します。
- それでも失敗する場合には、[リカバリオプション (Recovery Options)]ダイアログでトランスポートモードに[NBD]を選択して、再度リストアを行ってみてください。

NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup Appliance は NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティを提供します。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(nbsu\)](#)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NBDNA ユーティリティを NetBackup プライマリまたはセカンダリアプライアンスで実行して、次のタスクを実行することができます。

- ネットワーク関連の問題を解決するための NetBackup ドメイン構成の識別
- NetBackup パフォーマンス問題の識別
- ホスト名参照に関する動作が機能するかどうかの確認
- NetBackup ドメイン内でのロールに基づき、NetBackup ホストとアプライアンス間の接続性が確立され、正しく機能するかの確認
- シマンテック社のテクニカルサポートのためのレポートの生成

NBDNA ユーティリティは出力で次の形式の情報を提供します。

```
Running audit as Media Server.

Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-RedHat2.6.18 7.7.1
    NBU Version: 7.7.1
  NBU Major Version: 7
  NBU Minor Version: 7
  NBU Release Update: 1
    NBU Patch Type: Release Update
  NBU GlobDB Host: "host name"
    Is GlobDB HOST? No
    UNAME:
      Hostname: sample.name.symantec.com
    Host's Platform: Linux
    Perl Architecture: Linux

Initialization completed in 14.040101 seconds.
```

```
Brief Description of What It Does (for type 1):
```

- ```

```
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- ```
-----
```

Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.
 (To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 2.867581 seconds.

Initiating tests...

COMPLETED. Thank you for your patience.

```
/log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
Archive created successfully!
Return /log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
to Symantec Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)

nbsu ユーティリティを使うと、NetBackup とオペレーティングシステムについて適切な診断情報を収集できます。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』では、このユーティリティを使う状況およびその実行方法について説明しています。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.symantec.com/business/support/

NetBackup Appliance 固有の情報は、次の場所にあります。

go.symantec.com/nba

NetBackup Appliance のログファイルについて

ログファイルは、アプライアンスで発生する可能性がある問題の特定と解決に役立ちます。

NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。ログファイルは、アプライアンス操作などの情報、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題、温度またはバッテリーに関する問題、およびその他の詳細を取得します。

表 3-1 に、アプライアンスのログファイルにアクセスするために使用できる方法を説明します。

表 3-1 ログファイルの表示

取得元	方法	ログ詳細
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup のコピーログツールが作成するログ (nbcplogs) ■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ ■ オペレーティングシステムのログ ■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ ■ NetBackup アプライアンス Web コンソール関連のすべてのログ ■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報 ■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[モニター (Monitor)]>[SDCS 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	アプライアンスの監査ログ

取得元	方法	ログ詳細
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/> プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Appliance の構成ログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェースログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > VxLogView Module <i>ModuleName</i> コマンドを実行して、Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。	<p>Appliance 統合ログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ ストレージ ■ SWUpdate ■ Trace
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > DataCollect コマンドを使用して、ストレージデバイスログを収集できます。	Appliance ストレージデバイスログ
NetBackup Java アプリケーション	NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。	NetBackup Java アプリケーションに関するログ

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- 現在のリリースの内容について
- [NetBackup Appliance 2.7.1 のリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、**NetBackup Appliance** ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、**NetBackup** アプライアンスのこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、**NetBackup Appliance** 限定の修正のみを説明します。**NetBackup** アプライアンス 2.7.1 リリースには、**NetBackup** の 7.7.1 に含まれるすべての修正も含まれます。**NetBackup 7.7.1** の修正の完全なリストについては、シマンテック社のサポート Web サイトの『**NetBackup 7.7.1** リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC8511>

この **NetBackup Appliance 2.7.1** リリースは、**NetBackup Appliance 2.6.1** リリースおよび関連するメンテナンスリリースへのアップグレードです。以前のリリースの修正や拡張すべてを参照するには、シマンテック社のサポート Web サイトの以下のリリースノート文書を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

アプライアンスがリリースされると、**NetBackup** の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、**NetBackup** 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup 7.7.1 は、**NetBackup Appliance 2.7.1** リリースによりインストールされた **NetBackup** ソフトウェアのバージョンです。**NetBackup 7.7.1** の新しい機能、拡張およ

び修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.7.1 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC8511>

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、シマンテック社のサポート Web サイトの NetBackup サーバー 7.x ハードウェア互換性リストを参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 2.7.1 のリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。

一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

- 過去のリリースでは、ハードウェアコンポーネントの警告を受け取った場合、発生したエラーについての情報が警告に表示されませんでした。この制限事項のために、問題の原因を判断するのが困難なことがありました。NetBackup Appliance 2.7.1 では、ハードウェア警告が改良され、ハードウェアエラーの原因を確認するために役立つ正確な情報が提供されるようになりました。
- RAID コントローラアダプタがサイクルを学習する期間、予想される動作は 2 つの電子メール警告を受信することでした。1 つの警告は RAID が WriteBack モードから WriteThrough モードに変わるときに送信され、もう 1 つの警告は RAID が WriteThrough モードから WriteBack モードに戻るときに送信されます。ただし、BBU が失敗ステータスの場合は、1 つ目の電子メールのみが送信されます。NetBackup Appliance 2.7.1 では、この問題がこのリリースに含まれるハードウェア電子メール警告の改良の一部として解決しました。
- NetBackup 5330 Appliance では、NetBackup Appliance Web Console の [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] > [ストレージ接続 (Storage Connections)] ページに、5330 計算ノードとプライマリストレージシェルフ間のファイバーチャネル接続について誤った情報が表示される場合があります。デバイスが正しく接続されている場合でも、ページには「2 つのデバイスが接続されていない」と誤って表示されることがあります。

関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance のマニュアルについて](#)

NetBackup Appliance のマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。これらすべてのマニュアルは、次の URL でアクセスできるサポート Web サイトで入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

表 B-1 NetBackup Appliance のマニュアル

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ アプライアンスハードウェア取り付けガイド	このガイドは次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">■ アプライアンスハードウェアの物理的なレイアウトの紹介。■ 開梱の手順、環境条件、安全上の注意事項などの設置準備手順。■ ハードウェア構成手順 このセクションは、ラックにアプライアンスを設置し、アプライアンスケーブルを接続するために必要な手順について説明します。
Symantec NetBackup™ アプライアンス初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web Console、または NetBackup Appliance Shell Menu の構成プロセスが記載されています。
Symantec NetBackup Appliance アップグレードガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のアップグレードに必要な手順が記載されています。

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 配備情報 ■ アプライアンスの管理 ■ 監視情報
Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance Shell Menuから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
Symantec NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルには、このバージョンの NetBackup Appliance に関する情報が記載されています。リリース中の新機能の簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
Symantec NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance に関する最新のトラブルシューティング情報が記載されています。
Symantec NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	この文書には、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
Symantec NetBackup Appliance セキュリティガイド	このドキュメントには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Fibre Channel Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance のサポート対象ファイバーチャネル (FC) の機能と設定が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Decommissioning and Reconfiguration Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance の廃止と再構成の方法が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance SNMP トラップリファレンスガイド	この文書では、NetBackup Appliance SNMP トラップの詳細なリストを提供します。各トラップの意味と、エラー発生時の推奨措置について説明します。
NetBackup Copilot for Oracle 初期構成ガイド	この文書では、NetBackup および NetBackup Appliance を使用して Copilot を構成する方法の概要が記載されています。

ガイド	説明
Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	<p>『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。</p> <p>このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。</p> <p>http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/</p>

アプライアンスハードウェアについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5330 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 52xx と 5330 のアプライアンス、Symantec Storage Shelf の安全と保守ガイド